

母親と幼稚園

久米京子

三四

春陽を豊かに浴びて、緑の香も新々しい校庭には、新入園の園児の顔が、殊に輝いて見える頃となりました。これにも増して幸福さうなのは、それ等の子供達を伴つた母親達の軽やかな足取りでありませう。いさし吾子は、日頃憧れ慕つて居た幼稚園に、入園を許されたのです。吾子の前に開かれた洋々たる前途を祝福する氣持やら、手鹽にかけて來た子供が、兎に角選抜の光榮に浴したのですから、五年に近い勞苦も一時に報はれた様な、ホッとした氣持やらが入り混つて、誠に春陽を浴びるに相應しい心の状態は、あらゆる舉動に現はれて來るのでありませう。春毎に展開される此の情景の中に、私は幾度かほゞえましく、過去の追憶を呼び覺されました。其の記憶を辿り乍ら、更に一步を進めて、母親の望みさいふ様なものを、書き綴つて見度いと思ひます。

今まで、一時間ご手離した事も無い様な子供を、いよいよ幼稚園にお願ひしまして、同じ年格好のお子様の中へ

入れて戴く。其處で始めて私共親達は、吾子の現はす様な社會的反應さいふ様なものを目の前に見る。今まで氣も付かなかつた吾子の特徴、他のお子様との相違等發見して驚くさいふ様な事にもなります。勿論自分の努力の結晶も謂へる吾子の美點を、心秘かに誇り得る事もありませうが、又反面にもう少しかうしてやるべきだつたか、今更吾子に對して濟まない様な氣持ちにもなる。親達の持つ短所さと思へるものが、子供に其の儘出て居るのを、まさしく發見でもするさ、いさゝか暗澹とした氣持ちになる事もあります。こんな時母親が、誰よりもお話して戴き度く思ふのは、受持の保母先生でありませう。吾子の先生さなれば、保母先生の年齢の事なご問題ではありません。宛かも自分の先生でもあるかの様に思つて、何さかして子供の教育に就て、御助力戴きたく思ふのが、純真な母親の氣持ちでは無いでせうか。母親にして見れば、自分の分身でもあり、且は又、今迄の自分の仕事の成績物さも謂へる吾子の

事です。幼稚園で、貴女の子供はかういふ風に躰けるべきである。かうすべきであると言言して戴けば、一時の感情は兎も角として、兎に角それに従つてやつて行き度いと思ふのが、一般の母親の眞情であらうと思はれます。勿論譽めてさへ戴けば、宇頂天になるのも人情でせう。併しそれは、少し時が経つて考へ直して見れば、譽めて戴いた言葉の裏には、必らずその反面の短所をも考へついで、却つて複雑な気持ちになるさういふ様な事が多いし、若し又、其の當時、甚だお目出度く過してゐても、長い教育行程の中では、必らずや、吾子の眞實の姿に直面しなければならぬ、のつびきならない機會に遭遇するに違ひありません。

其時になつて、つくづく有難いと思ひ起すのは、唯吾子に就て語られた、眞實にして率直なる言葉でありませう。幼稚園に通ふ幼児は、學齡に達した子供とは違つて、「先生がかう仰言つたから」と云つて、家庭に歸つてから迄も、自分の生活を、自分で律して行かうと心がける程の精神力は、未だ々々、其程強く現はれて來ないのでありますから、少くとも眞面目に吾子の教育を思ふ親達は、一言でも多く、此の眞實の言葉を得たいものと、熱望して居るのだと思ひます。言ひ換へますと、幼児が直接に指導されてゆくのと並行して、さうしても母親は、幼稚園の教育に従つて教育され、さうして、幼稚園の教育に協力して行かなければなら

ないし、又それが心から爲度いのであります。即ち幼稚園が、家庭教育の單なる「補助機關」ではなくて、積極的な「補導機關」になつて親達に働きかけて戴き度いので御座います。

私の狭い見聞の範圍で申しますと、アメリカでの兩親再教育の計畫は、様々な方面から、發達を開始されて居りまして、特に力を注いで居る點や、その實行方法等も、色々異つてゐる様であります。その中でも保育學校、殊に實驗的な保育學校と、兩親教育の事業とは、誠に密接な關係を以つて、發達して來て居る様であります。「幼児のよき習慣を形成し、その成長の爲に快適な環境をつくつてやる」といふ事を、眼目としてゐる保育學校では、必らず母親の教育といふ事が、プログラムの一つになつて居る様であります。實際此の様な眼目のもとは、母親の理解と協力といふ事が無ければ、到底何も爲し遂げられないからであります。第二回教育會議（一九二七）の聲明の中に、次の様な非常に興味深い一文があります。「保育學校が成功するか否かには、一にかゝつて、母親が學校の目的を理解するのことは、子供の母親達を教育する事であるといふのが、此種學校の、共通の意見の様であります。或人が、「保育學校とは、一體母親の利益の爲に在るのか、子供の利益の爲

にあるのか?」を質問した程、此の事は一般的なものになつて居ります。」。

我國の實情も、アメリカの實情も、別に大した變りはない様です。母親達が子供を育てる方法は、いつも自己流か、せい／＼傳統的なものを守つて爲て居ります。教育の緩慢な發達によつて、母親の無智は、極めて徐々に取り除かれて行つて居るのではありませんが、それにも拘はらず、アメリカの保育學校の、此の勇敢な聲明を讀みますと、我々母親は、實に胸打たれる思ひが致すのであります。保育學校で、實際に行つてゐる、母親の協力、乃至教育云ふのも、色々な程度種類がある様であります。或る學校では、少くとも一週のうち半日だけは、母親の出席を強要して居ります。母親は、學校で手傳ひをして居るうちに、學校の色々な仕事に興味をおぼえて來て、熱心な態度で指導者に學ばうとする様に仕向けられて行きます。又他の學校では、特に入學に際して、保護者に學校の方針に就ての協力を要望し、それを受諾した者のみに入學を許可するさうであります。其の學校では、「學校が兩親の實驗室になる」さういふ事を目標としてゐる様であります。それでありませうから、母親達は、或一日は必ず保育學校で過し、適當な監督の下に、子供に就ての勉強を強ひられます。此處で此の様にして母親達は、子供の取扱ひに就て、具體的な

智識を獲得して歸つて行くのであります。又此の學校では、大學家政科等の生徒が實習に來て居て、生徒達は、各々二三人の子供を、特別によく觀察する様に指定されてゐます。此の實習生は、特にその母親ともよく聯絡を取り、その家庭にも自由に出入して、時には宿泊までして、子供の行動等を觀察します。その結果、學校と家庭との聯絡は、きはめて密接なものとなつて、學校は、幼児に關して、表裏兩面から、教育資料を獲得してゆくののであります。一寸日本では想像も出来ない様な、オープンな氣持ちのやり方でありませう。

實際多くの母親達は、人生の最も重要な仕事に關して、無智に等しい状態であります。之は、我國でもアメリカでも、變りはありません。我國の女子教育の課程中には、母としての準備教育が、一應は織り込まれて居ます。併し乍ら、娘時代に於ける此の課程は、少くともあまりチャージングではありません。恐らく大部分の人には、身についた教養なる等、到底望み得ない事でありませう。多くの人々は、母親となり、或ひはなるべくして、始めて具體的な智識を要求致します。此の智識の要求に對する満足な解答は、現在に於て、必ずしも圓滑に行はれてゐると思はれません。その結果、前にも申しました様に、母親達は、自己流のやり方や、傳統的な仕方、子供の養育に日を送

るの、やむなき状態にあるので御座います。ですから幼稚園に上る子供の「出来上り」は、完全「こいふ事からは、遙かに遠いものに違ひありません。此の無智な養育の成果に對して、始めて公式的な保育をして戴ける機會が、幼稚園に依つて與へられるのであります。幼稚園の保育が、單に幼児に丈及ぶものであつて、その根源である母親に及ばないものゝすれば、幼稚園の効果は、恐らく消極的なものゝなるのでは無いかご想像されます。私の狭い見聞から上に記しました様なアメリカ保育學校に於ける兩親教育程度のものであれば、日本の現在の幼稚園の機構で、充分遂行して戴ける、何でも無い問題では無いかご存じます。

エール大學に於ける、ゲゼル博士の心理學的教育相談所は一寸變つたもので、一步進んだものであります。此處のは保育學校では無く、單に相談所があるだけであります。子供の行動に就て、何か問題を持つてゐる母親が、子供を連れて、其處へ隨時相談に来るのであります。相談所の部屋には、小さな池があつたり等して、保育學校の遊戯室の様な設備がしてあります。部屋の一方の壁には、金網が張りめぐらしてあり、その一面には白エナメルが塗つてあつて、光線を反射する様になつて居ります。その結果、金網の外から部屋の中をのぞく事は出来ませんが、部屋の中から外は見えない様な仕掛けになつてゐるのであります。

相談の爲に連れて行つた子供は、此の部屋の中で遊ばせてもらひ、母親達は金網の壁の後で腰をかけて、中の子供の行動を観察したり、ノートをこつたりしてゐますが子供は母親達の姿を見る事は出来ません。母親は、所員から色々な説明を與へてもらふこゝに依つて、子供の扱ひについての、はつきりした智識を與へられます、幾日かこんな事を續けてゐるうちに、問題の子供を如何に取扱ふべきかに就て、はつきりした解決を與へられてしまふのであります。

此の様な、設備を必要とし、且又背景となるべき大學や、研究所等を必要とする様な保育の問題は、私共が只今直ちにこれを要求し、希望すべき事柄ではないであります。近い將來に、女子大學建設の希望が達成された様な場合には、家政學科の内容を以て、恐らく此の様な合理的な保育の問題も、討議されるに至る事でありませう。母親が家庭の中に閉籠り、心の扉まで閉鎖してゐる現状では、母親さしても多くを望み得ないかも知れません。アメリカで行はれてゐる様な、母親自身の發議によつてつくられた兒童研究協會や、大學婦人聯盟に於けるが如き活動は、敢えて望みも致しませんが、母親の心の扉を打ちたゞいて、その蒙を啓いて下さる企ては、その種類が何でありませうと、起つて来る事を望んでやみません。倉橋先生が、しきりに主張され企圖されて居られる、幼稚園を通しての家庭教育

こいふ、有効適切な運動に就きましては、少くとも私は、母親の一人として、日本全国に之が擴充され、深められ、

組織化されて、日本獨得のものにして、成長させ徹底させ、
て戴き度いものも、深く願つてゐる次第でございます。

「おはなし」は自分の手で

この見出しの言葉は、石森延男氏の近著「幼児の母欄内紹介」の中にある言葉です。著者は斯う書いてゐられます。

「今まで、おはなしこいへば、私どもは、すぐ何かほかのところにその種がないかさがしまはつてゐました。そこかをさがしてゐれば、おはなしを書いた本が、なにかあるだらうと目を外に向けてゐたのであります。これではいけない。こんごは一つ自分のもの、自分の力で、おはなしを生み出さねばだめだ。……それはかうです。あなた自身の身のまはりのところからおはなしの種をさがすこいふことです。子どもたちの目につくものを、すぐおはなしの種にしてしまふのです。」

此の同じ趣旨で、保育實習科の若い人達が試みた試作の中から數篇を拾つて見ました。おはなしの一つの新しい分野を開き進めてゆきたい心持ちから。(編輯子)

鍵穴のお話

若宮梅子

或る日のこと、皆さんが「サヨナラ〜」と言つて、元氣よく幼稚園からお家に歸つて行つてしまつてからのこと。誰も居なくなつてしまふと、靜かだつた皆さんのお部屋が急にぎやかに

なつて來ました。

何がはまつたのでせうか。

お部屋の中では丁度會がはまつたのです。集まつたのは皆お部屋の中のものばかりです。先づ大きな黒板さんが、真中にやつて來ました。續いてお窓さん、戸さん、机さん、椅子さん、花瓶さん、お花さん、電燈さん等皆が集つて來ます。それでお部屋の中は、皆さんがこのお部屋にいらつしやる時より、もつと〜にぎやかになつてしまひました。皆お友達同志といろ〜なお話を